

—飲酒運転追放のための運動—

「ハンドルキーパー」運動を全国展開

日本フードサービス協会では、全日本交通安全協会などと連携して、飲酒運転撲滅を目指す「ハンドルキーパー」運動を昨年12月から全国的に展開しております。

「ハンドルキーパー」運動は、車で飲食店に行く場合に、仲間やグループでお酒を飲まない人を決め、その人はお酒を飲まないで、他の人を送り届ける役を務めるというもので、飲食店においては、シールやコースターなどで飲まない人が判るようにして、お酒を提供しないことにします。

「ハンドルキーパー」運動に賛同する店舗では、啓蒙用のポスターやチラシなどを貼付し、お客様にアピールしております。外食産業界における飲酒運転防止の取り組みとしてご理解ご協力願います。

・「ハンドルキーパー」運動とは？ ドライバーの皆様へ

自動車仲間や飲食店などへ行く場合、お酒を飲まない人（ハンドルキーパー）を決め、その人が、仲間を自宅まで送り届ける運動です。

この運動は、オランダで8割の国民が意味を理解している「ボブ運動」を参考にしています。

オランダでは、仲間同士や飲食店が「今日のボブは誰？」と呼びかけ、グループ内で飲酒をしない人を決めておき、飲食店もこれに協力する取り組みを実施しています。

ドライバーの皆様には、飲酒運転を追放するために、「ハンドルキーパー」運動の積極的なご参加、ご協力をお願いします。

・酒類を提供するお店の対応

1. お客様が、車で来店されたかどうかご確認ください。
2. その時に、どなたが車を運転するのか（ハンドルキーパー）をご確認ください。
3. 車を運転する方（ハンドルキーパー）には、アルコール類を提供しないでください。
4. 車を運転する方（ハンドルキーパー）には、目印となるものをお渡りするか、目印となるものを席に置いてください。
5. お客様が運転代行等を依頼して帰られる時は、その確認ができるまで車のキーをお預かりください。
6. お店の判断によりますが、車を運転する方（ハンドルキーパー）には、ソフトドリンクをサービスするなどの工夫をしていただくと効果が上がると思います。

「ハンドルキーパー」運動ポスター

